

十九編下

~ 13
3730
38

柳
作
子

三月
廿
九
日
卯
時
辰
巳
刻

十九編上

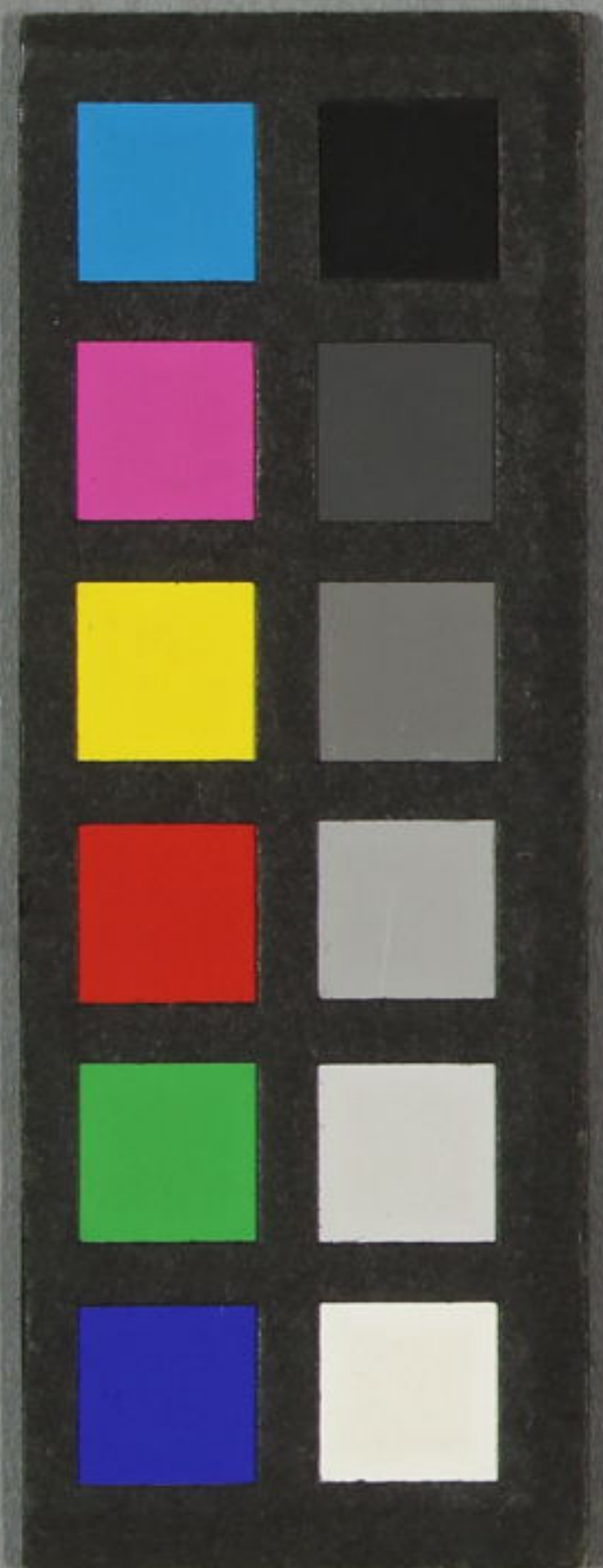


錦昇堂板

什題曲五團扇

~ 13
3730
37





門へ13
 3730
 37

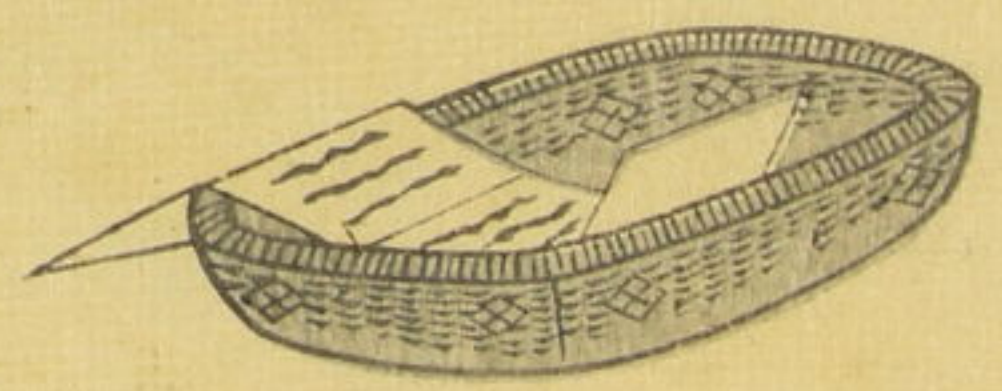
伊豫生た終



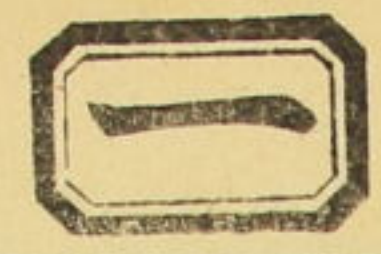
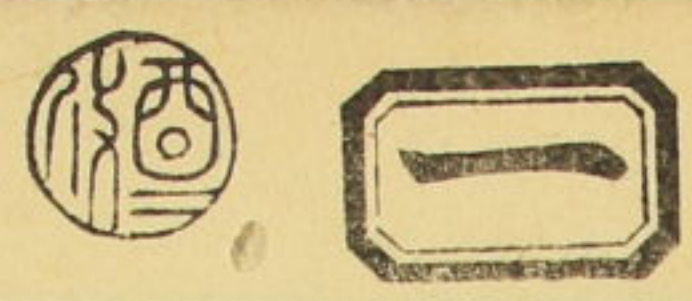
覽管の蓋

日時

勘文



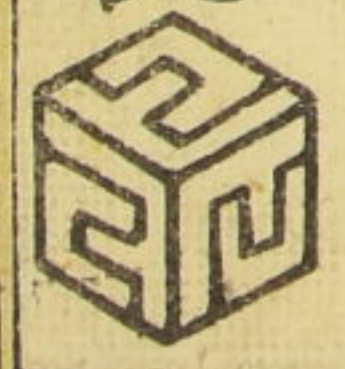
とよまは化
 らにそくや
 笑あを花



何者のえ歌あるう一女兒小伊勢や源氏ハ毒と老を定と徒然草ハ是と一薬とと
 勢語ハ業平朝臣と齋宮密通の段等有源氏ハ藤壺女三宮等の不貞を記と
 是とえあるいせとある一其醜と拳美と摺て我國乃至宝あると一糸の禪閣
 等の称揚ありし紫文と誹り深意ありて男一代は准(た)いせ譚の隠微を知ら
 口小隨(ま)り賤(ぢ)めあつて撒(ま)けの偏見(へんけん)より二大奇書(だいきしよ)と並(なら)べしあはぬ准(た)いせ岡(おか)の放言(はうげん)を小
 摘(と)りたること拙(ち)きき淫猥(いんわう)の章(しやう)と嫌(きら)ひ鴉(あ)弁(べん)の篇(へん)をよむと詩経(しきやう)のいふと削(け)ら
 ぬ春秋(しゆんしゆ)左傳(さくわん)小君(せうきん)を裁(さい)する條(じょう)の多(おほ)きと何(なに)と云(い)ふ悪(あく)を記(し)すの懲(ちやう)せんが爲(ため)あり又(また)良人(りやうじん)乃(すなは)ち
 適(た)あるハ月日(げつじつ)に蝕(じやく)の有(あ)りて瑕(きず)を厭(いと)む王(わう)を拖(ひ)ち酸(す)酒(しゆ)を緒(いと)留(とど)めよと先師(せんし)を以(も)つ
 義(ぎ)ハ承(う)知(ち)あがらえ物(もの)ホも口(くち)開(あ)けし名(な)人(にん)の力(ちから)を竭(つき)して染(ぞ)みあはれぬとハもそのり
 ちき一粒(いちりゅう)選(せん)の紫(むらさ)鹿(か)子(こ)に汗(あせ)を綴(つ)まど及(およ)びもつらぬ由(よし)縁(ゆかり)ハ既(すで)に柏木(かしわぎ)よりいさ花(はな)ハ
 ルみぢも昔(むかし)とあり枯(か)葉(は)のわらわらみよと囂(うら)ハ絶(た)えぬねばま
 其(その)色(いろ)香(か)と浅(あ)果(くわ)はれがいと六(む)日(にち)の拍(う)餅(もち)販(はん)出(し)る緩(ゆる)かちあれど舊(ふる)來(きた)不(ふ)弃(き)

万延辛酉孟春

柳亭種彦誌



柏之助



ゆにそんま
ゆにあそひつ
みづうら
さくら
これが

落葉



考れさきうハ
えかきとやきうど
ゆえんよ
いそつえつ
が解とせう
閑えらちむひと
云

雲井 巫くもいのまじ

氏仲うぢなかと



嫡妻ちやくさい
雁音かりね

乳房を舎とめぬ一本姫ちのちのちをさやとめぬいっぽんひめ
義晴將軍の御臺所よしはるしやうぐんのかみだいどころ

雲井 巫くもいのまじ
三男さんなん
春王はるおう



十八編のつた まうよの
まのまのこふさつうる
たうんたうんあえまの
えまかりあふかかけのま
らんまのまのつたまの
あせハツのまのつたまの
かあひまのまのあまの
まのまのまのまのまの



あまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまの
まのまのまのまのまの
まのまのまのまのまの
まのまのまのまのまの
まのまのまのまのまの
まのまのまのまのまの
まのまのまのまのまの

左のまのまの
まのまのまのまの
まのまのまのまの
まのまのまのまの
まのまのまのまの
まのまのまのまの
まのまのまのまの
まのまのまのまの



あまのまのまのまのまの
まのまのまのまのまの
まのまのまのまのまの
まのまのまのまのまの
まのまのまのまのまの
まのまのまのまのまの
まのまのまのまのまの
まのまのまのまのまの

まのまのまのまの
まのまのまのまの
まのまのまのまの
まのまのまのまの
まのまのまのまの
まのまのまのまの
まのまのまのまの
まのまのまのまの

まのまのまのまの
まのまのまのまの
まのまのまのまの
まのまのまのまの
まのまのまのまの
まのまのまのまの
まのまのまのまの
まのまのまのまの

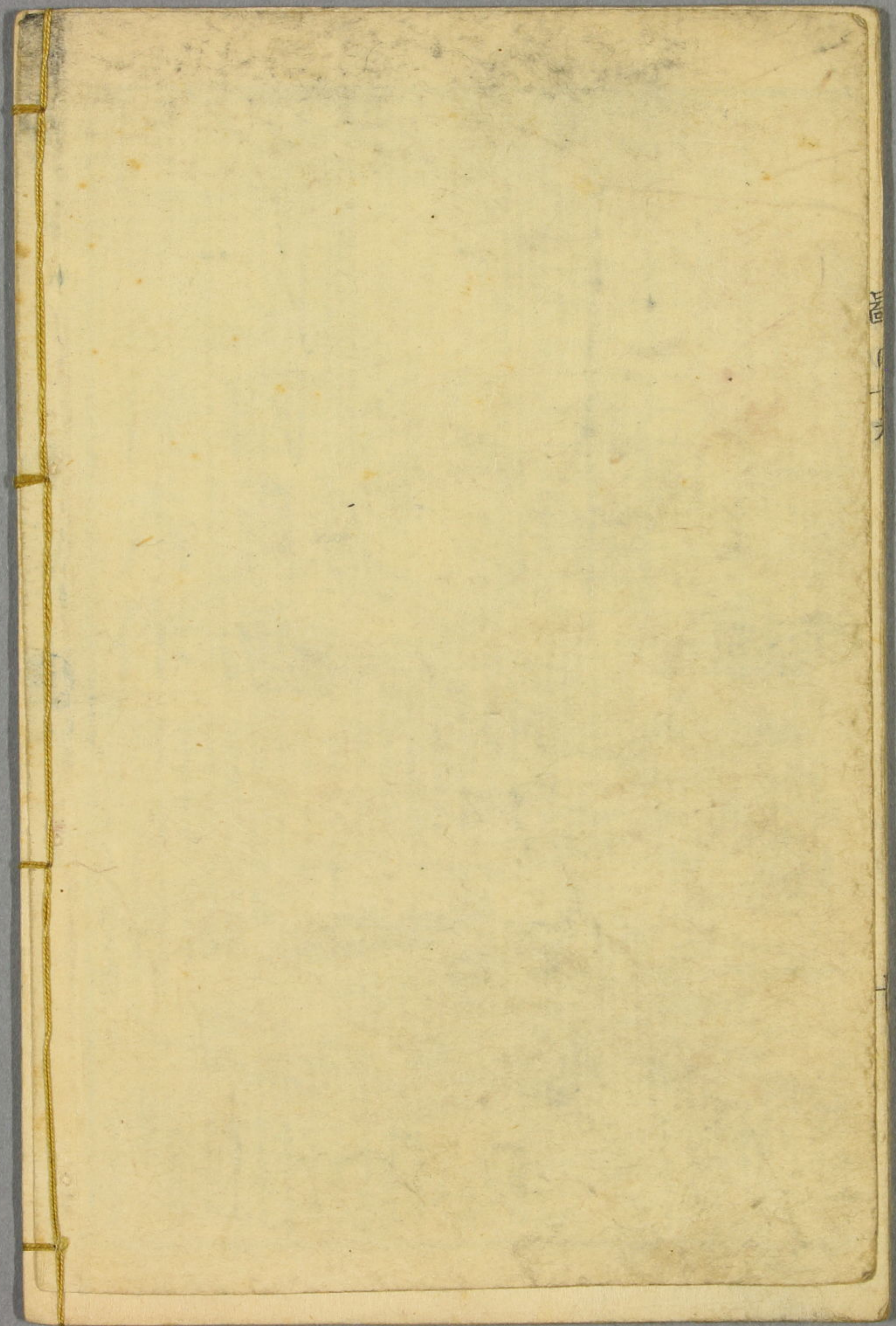
國貞画
種彦作

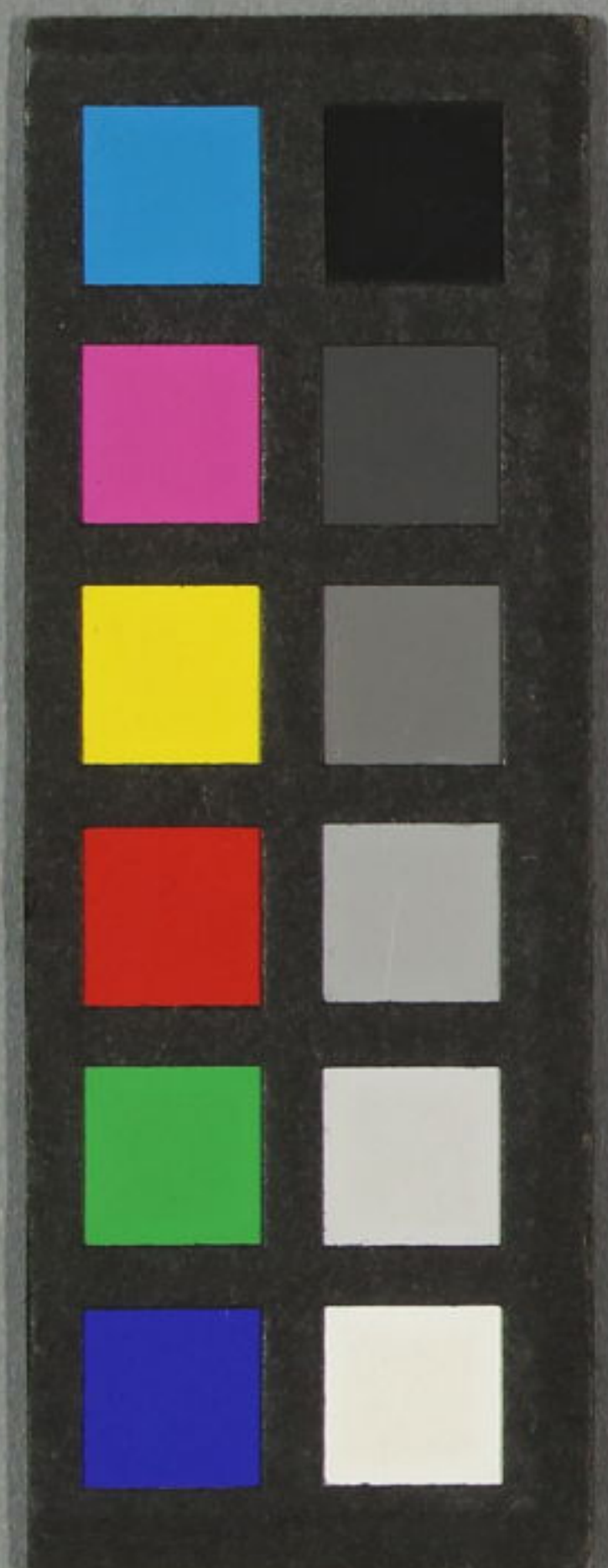


三の巻
 上之巻
 交來書命
 三の巻
 上之巻
 交來書命

三の巻
 上之巻
 交來書命

三の巻
 上之巻
 交來書命







讀書國作彥種

